

地震一口メモ No.248

河内大和地震から 90 年

昭和 11 年(1936 年)2月 21 日、奈良県を震源とするマグニチュード 6.4 の地震が発生しました。これが河内大和地震です。この地震により大阪府内では、死者8人、負傷者 52 人、家屋全壊4棟などの被害が生じました(大阪府地域防災計画による)。

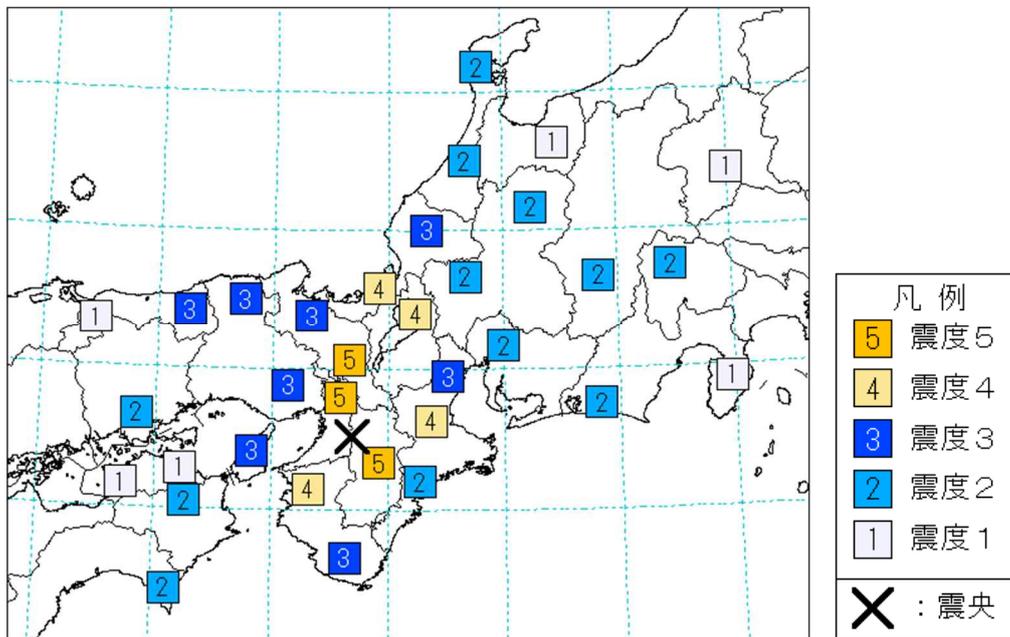
◇河内大和地震の概要

発生日時	昭和 11 年(1936 年)2月 21 日 10 時 07 分
震央	奈良県(北緯 34 度 31 分 東経 135 度 41 分)
地震の規模(マグニチュード)	6.4
深さ	18km
最大震度	(当時の震度階級で)5

※震源は気象庁地震カタログによる

◇河内大和地震の震度

大阪府、奈良県、京都府で震度5を観測したほか、関東地方から四国地方にかけて震度4～1を観測しました。



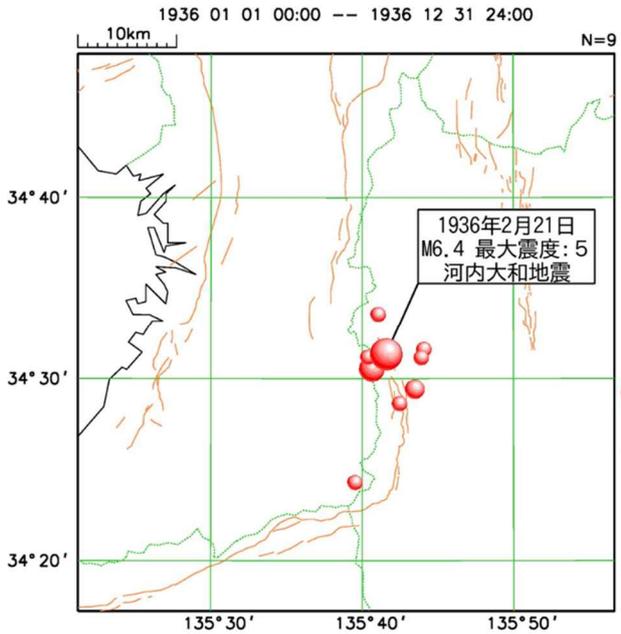
地域震度分布図

注：当時、震度は気象台及び測候所で観測されていました。

注：震度階級に震度7が導入されたのは 1949 年からです。また、震度5と震度6に強と弱が設けられ、震度階級が現在の 10 段階になったのは 1996 年以降です。

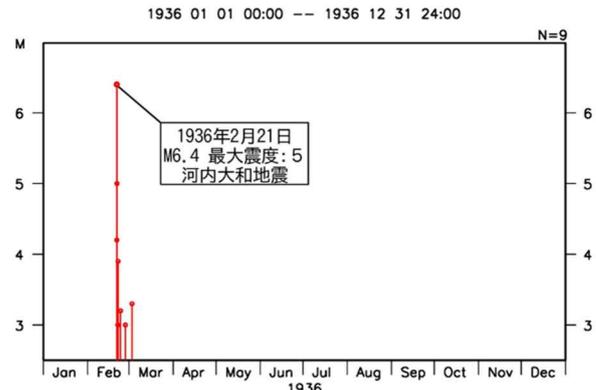
◇河内大和地震後の活動状況

河内大和地震の発生後、地震活動が一時的に活発となりましたが、時間の経過とともに次第に減衰しました。



震央分布図 (M \geq 3.0、深さ0~30 km)

中央構造線断層帯(金剛山地東縁)付近で発生していますが、断層との関連性は不明です。



左図内の規模別地震活動経過図

震央分布図中の橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

※日頃からの備え

90年前と今とは、防災のための道具は大きく変わりました。例えば当時は、乾電池やモバイルバッテリー、使い捨てカイロのような便利なものではありませんでした。今では、こうした道具を誰でも手に入れやすくなり、個人でも無理なく災害に備えられるようになりました。

災害をなくすことはできませんが、地震に関する正しい知識を身につけ、日頃から備えることで、被害を少しでも減らすことはできます。

日頃からの地震への備え

<p>家具の固定</p>	<p>非常用持ち出し袋の準備</p>	<p>水や食料の備蓄</p>
<p>避難場所や避難経路の確認</p>	<p>感震ブレーカーの設置</p> <p>分電盤タイプ(後付け型)</p> <p>コンセントタイプ</p>	<p>建物の耐震化</p>

自らの命、大切な人の命を守るために
今から準備しておきましょう

監修：内閣府(防災担当)、気象庁 Yahoo!ニュース オリジナル